

伝えよう、三計と半九の教え

そっけん

息軒だより

令和元年度 14号 (6・7月号)

発行 宮崎市安井息軒記念館
管理 NPO 法人安井息軒顕彰会
理事長 齋藤義輝 館長 中村富英
〒889 - 1605
宮崎県宮崎市清武町加納甲 3378 - 1
e-mail:sokken.yasui@pic.bbq.jp
<http://yasuisokken.qcweb.jp/>

一日の計は朝(あした)にあり
一年の計は春にあり
一生の計は少壮の時にあり



QRコードを読み取ると、記念館のHPがご覧になれます。



新任です。よろしくお願いたします。

今年4月、宮崎市安井息軒記念館館長に就任いたしました中村富英(なかむら とみひで)と申します。どうぞよろしくお願いたします。

安井息軒という名前は聞いたことはあるけど何をした人なんだろう。宮崎市の偉人といわれるけど何が偉かったのだろう?とっておられる方も多いのではないのでしょうか。実は、私もその一人でした。

5年前清武小学校校長として赴任し、その年に宮崎市教育委員会主催の安井息軒顕彰・川口市文化交流事業の団長としてこの事業に参加させていただき、それから息軒先生にのめり込んでしまいました。事業が終わっても息軒先生について、とても詳しい方々と知り合いになり、また、たくさんの方々とつながることができました。人と人とのつながりが広がっていくことは、こんなに幸せなことなのかと感じました。

記念館の館長として重責を感じておりますが、「知の巨人 安井息軒に親しみ、触れ、学び、まねぶ」を目標に、たくさんの方々に親しまれる記念館にしていきたいと思っております。

これからも、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方々を対象とした事業を企画し実施してまいりますので、皆様のご支援、どうぞよろしくお願いたします。



今年4月、安井息軒記念館学芸員として着任いたしました小山幸子(おやまさちこ)と申します。どうぞよろしくお願いたします。私は今年3月まで、高岡の宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館に5年間勤務しておりました。高岡は宮崎市出身の偉人の1人でもある高木兼寛の故郷でもあります。高岡時代は高木兼寛関連の資料調査および展示に携わり、脚気の原因究明に実直な態度で挑んだ兼寛の偉大さに触れる機会をいただきました。そして今、安井息軒という「知の巨人」を前にして、私にとっては新たな挑戦が始まりました。

私は宮崎市が生んだ安井息軒・高木兼寛を直接的に扱うめったにないチャンスをいただき、記念館で勤務することはこれも何かの縁だと思っています。記念館は安井息軒を核としたさまざまな事業を行います。来館して下さるすべての方に「記念館にまた行きたい」「記念館って楽しいね」と感じていただくような記念館運営を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

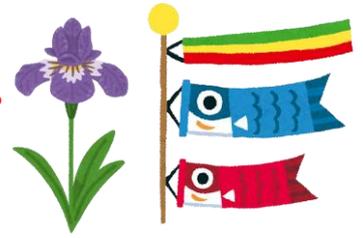
工事中につき、ご迷惑をおかけします



国指定史跡 安井息軒旧宅跡は現在耐震を
施した太掛かりな工事が行われています。

4月20日(土)、工事関係者のご協力をいただき、工事見学会が行われました。茅葺きの屋根の葺き替えについて、その技術や作業で使う道具のお話など興味深い内容が盛りだくさんでした。旧宅は令和元年11月までが工事期間となっておりますが、見学等については記念館へどうぞご相談ください。

ゴールデンウィーク企画 「息軒博士になろう！」ご協力ありがとうございました。



4月27日から5月6日までのゴールデンウィーク企画として「息軒博士になろう！」を実施しました。この企画は主に小学生対象でしたので、ご家族での来館が多かったのですが、集計してみると子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方々に来ていただき、全職員で喜んでいるところです。また、来館者数も100人と考えていましたが、217人の方々が来館してくださいました。

安井息軒先生のことを知ることはもとより、ミッション（問題）を親子で話し合いながら解いていくことでコミュニケーションも図られたようでした。また、その姿はとてもほほえましく思えました。

他にも、県外の大学生も数名来館していただき、「安井息軒について初めて知りました。勉強になりました。」、また、若いカップルも、「息軒博士になろう！」に挑戦し、その方々からは「……息軒先生って、なにをした人なんですか？」という素朴な質問もあり、短い時間での説明の難しさも感じました。

今回の企画は最後に、息軒先生（職員）から合格のハンコをもらい「息軒博士号」を授与されるという流れでしたので、来館者と直接話すことができました。そのことで来館者と記念館職員との距離をぐっと近づけたのではないかと考えております。

アンケートにも、たくさんの方々に、次回を楽しみにしていると書いていただきました。今後、さらに興味を引く企画を考えていきたいと思っています。

来館していただいた皆様、そして、この企画にご協力いただきました関係諸機関の皆様にご心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

(文責 中村)



たくさんの弟子たちが、息軒博士になっただぞ！よくがんばった！次回も挑戦しよう！



もっと知りたい！息軒噺（ばなし）

志半ば伝馬町の牢に散った 悲運の志士 北有馬太郎

【その1】

本名を中村貞太郎といいます。北有馬太郎という名は幕末の志士たちがよく使った変名です。35歳で伝馬町の牢で獄死しました。この貞太郎、実は安井息軒の弟子であり義理の息子でもあるのです。そこで、今回よりこの貞太郎の生涯をピンポイントで捉えながら5回シリーズで紹介します。

貞太郎は若い頃から、水戸学の影響を強く受ける久留米藩の木村三郎が主催する日新社で学び、真木和泉守を中心とする天保学連に参加し、同志たちと交わる中で、自身の心に尊王攘夷思想を萌芽させていきます。

弘化元年（1845）4月、久留米藩主有馬頼徳が死去し、貞太郎は、国禁を犯す任務を天保学連の同志たちから託されます。それは、窮迫した藩財政の改革を求め、英明な新藩主頼永よりとうに建白書を届けるため隠密裏に江戸へ入る任務でした。再び戻れる保証のない上府を決死の覚悟で引き受けた貞太郎は、家人にも秘密にと強いられるなか帰宅を願い、悟られぬように身支度を整え、父母弟妹との決別を心に刻みます。しかし、我が子の尋常ならぬ様子に母親が気づかぬわけがありません。一度は虚言で取り繕ったものの、哀しみを抑えきれず真実を打ち明けてしまいます。家族に知れ危険な任務と反対されれば、計画は全て水泡に帰し、太郎に対する同志たちの信頼も全て失墜します。しかし、その時、意外にも父寛平は静かに息子の志を称え、酒を勧めて送り出してくれたのです。

江戸へ向けて出発して21日後、貞太郎は無事任務を果たします。貞太郎の学才と彼が有為の人材であることを知った頼永は、人を介して、貞太郎へ慰労の言葉と共に報奨金を与えます。藩政改革に着手した頼永は、仁政を行い領民から名君と慕われますが、わずか2年で病により急逝します。

（文責 長野）

curator Colum

子どもたちの好奇心を刺激し、

ストーリーのある展示を

～令和元年度 宮崎県博物館等協議会総会・第1回研修会に参加して～

学芸員 小山のつぶやき
コーナーです。

※curator(キュレーター)
「学芸員」の英訳

「見て飽きない展示」「何度も見たい展示」「読んで楽しい解説」。

見学者にこんなことを言われたら、学芸員ならうれしくて飛び上がります。(笑)

近年、博物館施設等における運営の在り方が変容し、今まさに博物館等施設の役割について考え直す必要を感じています。未来を担う子どもたちへ文化継承をするためには、展示資料を通して「主体的・対話的な深い学び」ができる仕掛けを提供し、この体験を共有できるような場にすることが求められます。リピーターが増えている館に共通していることは、子どもたちの好奇心をくすぐり、疑問を探求するきっかけを与えてさまざまな角度から「モノ（資料）」の持つ意義を引き出し共有するといったコンセプトが含まれていることです。学術・研究機関だけにとどまらず、博物館法でうたわれている「生涯学習の場」としての機能を高め、誰もが楽しく学べる空間づくりが重要です。「何度でも行きたくなる博物館」には展示計画や資料の持つ事実に基づいたストーリーがあります。来館者を引き付けるために何ができるか、来館者が求めているものは何かといったことを今後も考えながら、「安井息軒記念館」らしい運営を進めていきたいです。

●令和年度 NPO 法人安井息軒顕彰会総会の開催

5月25日（土）総会が記念館研修室で開催されました。来賓として落合名誉顧問、野崎県議会議員、若友前理事長が出席。平成30年度の息軒顕彰会と記念館の事業報告・決算報告、運営の基本方針、令和元年度の事業計画案・収支予算案、役員体制案が審議され、それぞれ承認されました。総会終了後の理事会で、斎藤義輝理事長、川口眞弘・中村富英副理事長が互選され、理事長から事務局長に黒木幸英理事が任命されました。また、新たに顧問として若友弘子前理事長が委嘱されました。

顕彰会発展のため、役員、会員の皆様方及び関係者の方々と連携して事業実施に取り組んでまいりますので、ご協力、ご支援よろしくお願ひします。



●みやざき三計塾が開講！

昨年度に引き続き、安井息軒の著作である『論語集説』を丁寧に読み解く講座が始まりました。宮崎大学教育学部の山元先生が楽しく分かりやすく解説して下さいます。「温故知新」や「後生畏るべし」など、一度は耳にしたことのある言葉の「本当の意味」が分かります。目からウロコのこの講座、ぜひ一緒に学んでみませんか？



●目指す教師とは？ 息軒先生の教えから学ぶ ～宮崎国際大学 忍ヶ丘教養～

5月28日（火）、教員を目指す宮崎国際大学2年生の学生さんたちが来館しました。はじめに、学生さんたちは「息軒博士」のクイズラリーシートを使って調べ学習をしました。その後、中村館長がグループ形式で講義を進めました。その中で出された課題が、「『論語』の言葉について自分なりの解説書を作ろう」です。さまざまな解釈を検証し、しっかり理解しないと自分の解釈はできません。古典や古い研究をじっくり温めて新しいものを作ることができる人こそ先生になれるのだ、と息軒先生は言っています。学生さんたちはよく議論して考えていました。「温故知新」の言葉に、子どもの心を引き付ける授業をするにはどうしたらいいかを改めて考えたのではないのでしょうか。



★ 会員募集

NPO 法人 安井息軒顕彰会では令和元年度の会員を募集しております。

年会費

- 一般会員 2,000 円
- 賛助会員 1,000 円
- 学生会員 500 円
- 団体会員 5,000 円

各種お問い合わせ、会員の近況報告、情報提供などがございましたら事務局までご連絡ください。

★ NPO 法人 安井息軒顕彰会

連絡先 宮崎市安井息軒記念館
〒889-1605 宮崎市清武町加納甲 3378-1
電話・FAX 0985-71-3005 携帯 080-8589-0569
e-mail : yasuisokken@yahoo.co.jp

安井息軒記念館

管理：NPO 法人 安井息軒顕彰会
理事長 齋藤 義輝 ★
事務局長 黒木 幸英

記念館職員

館長 中村 富英
学芸員 小山 幸子
職員 長野 智愛子
職員 日高 弘子